

学位論文の審査結果の要旨

インドネシアでは、これまで農産物については非効率な販売経路、高い輸送コスト、大規模商人による価格支配などがその特徴として指摘されてきた。このような状況を打開し生産者所得の増大をはかるため、政府は農家の共同販売組織（FGA）を育成しそれを通じた農産物の輸出拡大と流通の効率化政策を導入した。しかしこの政策の成果は必ずしも大きいとはいえない。

本論文はこうした状況を踏まえ、FGAの設立を通して生産者価格を上昇させたスネークスキンプルーツ（*salacca*）の事例をとり上げ、そこでの価格変動メカニズムを分析している。

本論文では、まず従来とりあげられることが少なかったスネークスキンプルーツについて、22の品種ごとに栽培的、経済的特性を整理している。また価格変動メカニズムを調査するため、ポンダ種（*Salacca zalacca* cv *Pondoh*）の生産地であるジョグジャカルタ州スレーマン地区で、生産者起点に川下部分の価値連鎖に関するデータ収集を行い、生産から販売に至る価値連鎖図を作成している。また対象果実の価格変動メカニズムについては、以下のアプローチをとっている。

第1は、国内市場と輸出市場を分け、前者における価格変動を主に取り上げる。そして国内市場の流通主体間の価値連鎖図を基に、生産者、流通主体別の所得率とその変化から流通主体間の付加価値形成力の比較を行い、それにより対象果実の流通構造を動的に把握することに成功している。また生産者価格の上昇を流通主体間の関係変化として把握し、それに寄与した流通主体として小規模産地商人とFGAを特定している。

第2は、小規模産地商人、FGAと生産者価格上昇との関係をスレーマン地区の事例調査により明らかにしている。これについてはまず、産地内での取引を担う小規模産地商人をとり上げ、産地商人の行動変化から生産者価格の上昇に接近している。本論文では、スネークスキンプルーツを取り扱う小規模産地商人は、従来の見方と異なり、大規模商人のエージェント化せず独立商人として発展したことを資金分析により明らかにした。また、産地商人は蓄積した資金で取引規模を拡大させ、川上に位置する中間商人を排除したこと、および生産物の全量現金買い取り制へ

移行したことが生産者価格上昇の1要因となったことを明らかにしている。

第3は、これまで国内市場への影響については議論されることがなかったFGAの価格上昇への寄与を明らかにしている。本論文では、輸出企業であるAMSとのパートナーシップにより輸出を拡大させたミトラトレンドFGA(MTFGA)の事例を基に、FGAを継続させる条件及び輸出企業とのパートナーシップを継続させる条件をFGA間の比較を通して明らかにしている。またMTFGAと果実価格の上昇については、導入したGAP・SOPによる品質向上効果、及びMTFGAを通して形成された価格交渉効果に分けて検討することで、MTFGAが国内市場価格へ与えた影響を明らかにしている。これらの成果は、生産者、FGA、産地商人の連携を通じた農産物流通改善政策に新たな視点を提供するものと評価される。

以上のように本論文は、学術的意義と政策的意義を持ち合わせ、また学会誌論文2編の内容に基づいてまとめられていることから、審査委員全員一致で博士（農学）の学位に値するものと判断した。

公 表 主 要 論 文 名

- Heri Kurnianta, Sasaki Takashi, Marketing performance of group farmer associations through the partnership model: A case study on snakeskin fruit cultivation, Sleman District, Indonesia, Japanese Journal of Farm Management, Vol.50, No.2, pp.100-105 (2012).
- Heri Kurnianta, Sasaki Takashi, Analysis of farmer prices and their influencing factors: Case study of snakeskin fruit in Sleman District, Yogyakarta Province, Indonesia, Japanese Journal of Farm Management, Vol.53, No.3 (in press).